

令和5年度 城北小学校 学校評価

1 令和5年度の取組

(キャリア教育で育てたい力 ♥人とつながる力 ♦自分の良さに気付く力 ◆課題に取り組む力 ♣チャレンジする力)

【徳】みとめ合う子	【体】きたえ合う子	【知】みがき合う子
「ひと・もの・こと」にかかわり、命や心を大切にする子を育てます ♥子どもたちで話し合い問題を解決できる場の設定 ♥相手の気持ちを考えて話すための工夫	進んで挑戦し、最後までやり抜く子を育てます ◆自分の課題を見つけるための工夫 ♣進んで運動に取り組む場の設定	課題をもち、学び合いを通して、よりよく解決する子を育てます ♥考えを深めるための場の設定 ♣学ぶよさやつながりを実感させる工夫

2 自己評価 (回答数：児童 420/433 教師 25/28 保護者・地域 356/449)

項目内容 「城北小の子どもたちは～」1～10, 12		「そう思う ・まあそう思う」%		
		児童	教師	保護者 地域
みとめ 合う	1 友達と仲良く過ごしている。	88.8	100	95.5
	2 明るいあいさつや返事をしている。	79.1	88	83.7
	3 相手の気持ちを考えて、やさしい言葉を使っている。	76.7	60	74.7
	4 自分の命も、友達の命も大切だと思っている。	95	84	86.2
	5 自分の良さを見つけることができている。	65.2	80	81.7
	6 友達の良さを見つけることができている。	87.4	84	84.6
きたえ 合う	7 授業中、めあてを意識して、運動や学習に取り組んでいる。	84.8	96	83.4
	8 外に出て元気に遊んだり、運動したりしている。	87.1	92	91
	9 学習カードなどを使って、運動や学習に自分からチャレンジし、最後までやり抜こうとしている。	75	80	78.6
みがき 合う	10 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら学習をしている。	86	88	82.3
	11 職員は、指導方法を工夫して、分かりやすい授業をしようと努めている。	86.9	96	86.5
キャ リア	12 キャリア教育で身につける4つの力(♥♦♣♠)を知っている。(職員は意識して授業を行っている。)	77.6	64	59
学 校	13 職員は、「いじめは決して許されない」という姿勢で子供たちの指導を行っている。	86.2	96	83.4
	14 職員は、子どもや保護者の話をよく聞こうと努めている。	/	96	88.2
	15 学校は、保護者、地域の人たちの協力を得て教育活動の充実に努めている。	/	90	90.4

3 評価からの分析・考察

- ・友達の良さは見つけられるが自分の良さを見つけられない傾向があり、自己肯定感の低さが職員や保護者の感じるそれと違いが見られた。
- ・「やさしい言葉を使っている」児童が8割未満であり、教員が感じている割合はもっと低かった。
- ・学習の取り組みは意欲的に友達と交流しながら行うことができているが、最後まで粘り強くチャレンジする場面に苦手を感じる傾向が見られた。
- ・キャリア教育で身につける4つの力の理解がまだ浸透していない。
- ・「いじめは決して許されない」という意識は高い。児童に行っているアンケート結果や面談を大事にし、気になることは職員間で共有し、組織で対応したり、支援したりすることを続けていることもその要因であると考えられる。

4 今後の改善方策

- ・子どもたちの自己肯定感を上げるために、大人がもっと認める場面を増やしたり、子供たち同士の関わりの中でお互いの良さを認められるように交流場面を増やしたりする活動を設定する。
- ・「やさしさ」を合言葉に、やさしさを形にするための5つ方法を浸透させ、自分や友達を思いやる心を育てる。
- ・チャレンジする場面を運動面以外にも広げていくようにする。子どもたちとの感じ方の違いに目を向け、子どもの気持ちに寄り添った活動を行う。今後も意識していきたい。
- ・引き続き、キャリア教育で身につける4つの力について、授業や行事の活動の中で紹介したり、カードを提示したりして、意識化を図る。
- ・「いじめ防止基本方針」を全職員で見直す。また、日頃から子どもたちの話に耳を傾け、これからも「いじめは決して許されない」という姿勢で対応していく。
- ・いじめ対策委員会で、事例検討研修を行ったり、情報を共有したりして、普段からのいじめ防止に役立てていく。

5 学校運営協議会による学校関係評価

- ・チャレンジする場面が運動以外にも広がるのはありがたい。運動が苦手な子もその他の面で頑張ることができるため。
- ・子どもとの面談は担任以外ともできるとよいのではないかと感じる。
- ・自己肯定感が低くとも、友達の良さがわかるのは、謙虚で優しいところがあるのだとも思える。自分を守る優しさも大切だと伝えて頂きたい。
- ・子どもたちの表れだけを評価するのではなく、教師自身がどうであったかも評価すべき。教師の自己評価も行うとよい。
- ・評価分析を学年別にしたり、いじめの報告件数と照らし合わせたり、いろいろな軸で見るともっと見えてくるものがあるかもしれない。